資料　2

令和7年度
外部評価委員会

MIYAZAKI AGRICULTURAL JUNIOR COLLEGE

宮崎県立農業大学校

評価項目の構成

			担当	令和６年度	内部	外部
1 学生確保	ア 情報発信		教務学生課	教務学生課	A	
	イ 募集活動		教務学生課	教務学生課	A	
2 教育の質の向上	ウ 講義・実習		教務学生課 農学科 畜産学科 フードビジネス	農大校全体	B	
	エ 研修	① インターンシップ	教務学生課 農・畜産学科	農大校全体	B	
		② 職員研修	教務学生課 農学科 畜産学科 フードビジネス	農大校全体	A	
	オ プロジェクト学習		農学科 畜産学科 フードビジネス	農大校全体	A	
	カ 学生指導・支援		教務学生課 農学科 畜産学科	農大校全体	B	
3 進路指導	キ 資格取得		学校全体	教務学生課	B	
	ク 就農・就職対策		学校全体	教務学生課	A	

学校評価における「評価基準」の考え方

評価	評価基準の考え方	
	数値目標がある場合	数値目標がない場合
A	達成度　90%～100%	期待を上回る特筆する成果がある
B	達成度　70%～89%	概ね期待される成果がある
C	達成度　50%～69%	期待される成果を十分に上げられなかった
D	達成度　50%未満	得られるはずだった成果をほとんど上げられなかった

評価項目	１．学生確保	ア．情報発信	教務学生課

令和6年度の目標	校内外に向けた学校ＨＰ・ＳＮＳを活用した情報発信

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組
※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

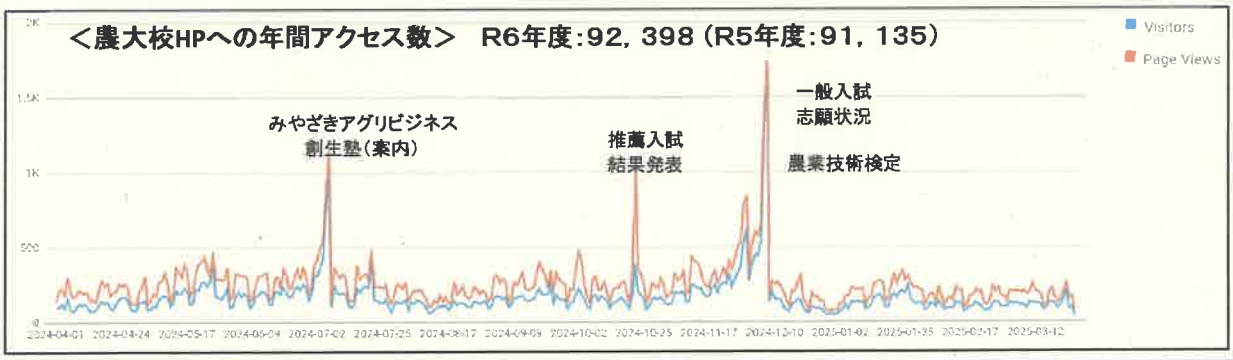
◇目標に対する取組等
(1)校内外に向けた学校ＨＰ・ＳＮＳを積極的に活用し情報発信に努める
①情報アップと更新に努める。Facebook年間１００回の更新、ホームページ３０回更新
②校内の電子掲示板や掲示板を活用し、掲示情報の充実に努める
③メールでの発信やTeamsを活用した、情報共有による業務の効率化を図る
④情報発信については、タイミングを図りながら、計画的に情報発信を行う　☆

(2)効果的な情報発信に向けた校内の体制づくりを進める　☆
①更新する人数の増員
②安心安全メールの配信に向けたルールづくり

■取組実績と成果

(1)校内外に向けた学校ＨＰ・ＳＮＳを積極的に活用し情報発信に努める
①Ｆａｃｅｂｏｏｋ更新　目標：年間１００回以上　現在９２回
農大ホームページ更新　目標：年間　３０回以上　現在２５回
②電子掲示板・掲示板ともに随時更新したことで、学生・職員に対する、円滑な情報周知につなげることができた。
③Microsoft Teamsを活用した情報共有・周知を進めたことで、業務効率化につながった。
④広報委員会メンバーを中心に、Facebookの投稿前チェックをルール化し、計画的に情報発信を実施したことで、アクセス数が増加するなど、効果的な情報発信につながった。

(2)効果的な情報発信に向けた校内の体制づくりを進める　☆
①広報委員会を開催（10/22）し、委員全員（５名）をＦＢ管理者へ増員すると共に、投稿時のルールを策定と年間掲載計画を作成し、担当者割当を行ったことで、積極的に情報発信を行うことができた。
②安心安全メールに関する職員間の申し合わせで、送信量と送信回数を精査し、情報提供のルールを設定したことで、学生に効果的な情報周知ができた。



内部評価	A	・情報発信のルール化で精度の高い情報を計画的に発信ができた （本校ＨＰ・ＳＮＳの更新は目標達成、ＨＰアクセス数：前年比増加） ・各種掲示板、メール等を活用した効果的な情報共有が図られた
外部評価		

◆次年度への課題

・本校の認知度を向上するため、年間スケジュールに基づいた計画的な情報発信を行っていく必要がある。

評価項目	１．学生確保	ア．情報発信	教務学生課

令和7年度の目標	校内外に向けた学校ＨＰ・ＳＮＳ等を活用した情報共有・発信

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組　　※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

◇目標に対する取組等

①年間スケジュールに基づいて計画的な情報発信を行う

・広報委員会を学期1回実施し、年間計画に基づく情報発信に努める。
（年間目標：Facebook年間１００回更新、ホームページ３０回更新）
・農大ホームページの全体的なリニュアルを図る。☆
・FacebookとInstagramを紐づけ、閲覧数の拡大に努める。☆

②効果的な情報共有（ＳＮＳ活用の推進）

・こまめに情報を収集し、学生の活動や行事の成果などを発信する。
・各種SNSを更新する人数の増員し、更新の頻度を上げるなど情報発信力の向上に努める。
・Teamsを活用して更新内容のチャックを行うなど、更新作業の負担軽減に努める。☆

③県外校へのＰＲ活動

・ＰＲ手法の検討と構築を図る。☆
・近年、県外からの学生が入学している状況であるため県外校へのＰＲ活動を図る。
（※令和６年度：９名及び令和７年度：１０名の県外出身者）

■取組実績と成果

内部評価	
外部評価	

◆次年度への課題

評価項目	1．学生確保	イ．募集活動	教務学生課

令和6年度の目標	入学定員６５名の確保（農学科４０名、畜産学科２５名）

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組
※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

◇目標に対する取組等

(1)教育内容のＰＲ
①学校説明会や進路ガイダンスへの積極的な参加
②高校訪問時の説明資料を改善、オープンキャンパスの取組内容を改善
③高校訪問による授業参観及び意見交換会の実施（農業高校以外）　☆
④農業系以外の高校（普通、工業、商業、海洋、私立校など）へのＰＲ活動を強化
⑤県外校へのＰＲ活動
⑥四年制大学への編入可能な専修大学校であることを周知

(2)積極的な情報発信
①学校ＨＰやＳＮＳを活用した情報発信
②関係機関の事務所等にも、学生募集の資料、チラシ等の配布、掲示等を依頼
③マスコミ（新聞・ＴＶ等）を積極的に活用し、学校行事や取組等をＰＲ

■取組実績と成果

(1)教育内容のＰＲ
①高校訪問：４～５月（管理職）、６～７月中旬（一般職員）、進路ガイダンス（20回）
②高校訪問・・・本校職員の手持ち資料を簡潔にまとめ、高校側への説明内容を改善した。
＜オープンキャンパスの改善点＞
・農 学 科：機器(ﾄﾞﾛｰﾝ、糖度分析機等)等を活用した調査体験（４専攻）
・畜産学科：生殖器を活用した人工授精体験
・ﾌｰﾄﾞﾋﾞｼﾞﾈｽ：酸乳飲料の製造体験
※ 参加生徒、保護者から興味深い内容だと高評価
③近隣高校の公開授業に参加し、教材研究を基にした授業の展開と、教育現場のデジタル化を確認した。普通科高校の先生との意見交換を行い、生徒への対応や家族との連携、学習評価の在り方等を確認した。
④高校訪問で、４年制大学への編入を説明したことで、普通科高校受験者が増加した。
⑤曽於高校（鹿児島県）の進路ガイダンスに参加し、本校のＰＲを行った。
＊推薦入試受験者数　県外からの志願者９名（昨年度７名）
＊一般入試受験者数　県外からの志願者４名（昨年度６名）
⑥令和５年度進学実績と本校カリキュラム内容を高校訪問やガイダンス等で説明した。
＊今年度編入実績：佐賀大学１名、南九州大学１名（昨年同様）

(2)積極的な情報発信
①学校ＨＰやFacebookで、農業大学校の日常生活やイベント情報、入試関係を情報発信した。
他県からの問合せも多く、県外出身受験生が増加（推薦入試９名、一般入試４名）
②県内の農政関係機関、市町村に本校ポスター、パンフレット、募集要項を配布しＰＲを実施
③宮日新聞→　入学式、口蹄疫慰霊祭、有機農業講義、ｱｸﾞﾘﾄﾞﾘｰﾑｷｬﾝﾌﾟ、アグリカレッジひなた
ICT機器（分娩カメラ）寄贈
ＴＶ（口蹄疫慰霊祭）→　ＮＨＫ、ＵＭＫ、ＭＲＴ

内部評価	A	・定員65名に対し59名の入学希望者を確保（90.8%） ・積極的な学校訪問等により、普通科高校や県外からの入学希望者が増加
外部評価		

◆次年度への課題

・本県農業の担い手を確保・育成するためには、農業系以外の高校及び県外高校からの入学者確保の強化が必要
・入試業務の簡素化を図るためには、入試手続きに関するオンライン化への取組みが必要

評価項目	１．学生確保	イ．募集活動	教務学生課

令和7年度の目標	入学定員６５名の確保（農学科４０名、畜産学科２５名）

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組
※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

◇目標に対する取組等

①高校訪問、進路ガイダンス、オープンキャンパス等による積極的な募集活動
- 学校説明会や進路ガイダンスへの積極的な参加に努める。
- 学校ＨＰやＳＮＳを活用した情報の発信に努める。
- 関係機関の事務所等に、学生募集の資料、チラシ等の配布、掲示等を依頼する。
- マスコミ（新聞・ＴＶ等）を積極的に活用し、学校行事や取組の情報発信に努める。

②農業系以外の高校へのＰＲ活動強
- 農業系以外の高校（普通、工業、商業、海洋、私立校など）に向けたＰＲ活動の強化を図る。
- 本校から４年制大学への編入が可能であることをＰＲするなど、本校が高校生の新たな進路選択先の一つになるよう努める。
- 高校訪問による授業参観及び意見交換会の実施を行う。（再）

③入試手続き等のデジタル化を推進する。☆
- 入学料及び受験手数料等のキャシュレス化に努める。
- 出願手続きのデジタル化に努める。

■取組実績と成果

内部評価		
外部評価		

◆次年度への課題

評価項目	２．教育の質の向上	ウ．講義・演習	教務学生課 農　学　科 畜 産 学 科 ○フードビジネス

令和6年度の目標	①学生の多様化に対応したカリキュラムの構築 ②基本的な生産技術と経営スキルの習得 ③有機農業の知識・技術習得 ④スマート農業技術の習得

■取組と計画

☆は、新たな取組又は強化する取組
※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

(1)学生の多様化に対応したカリキュラムの構築
①改訂したカリキュラムの検証　☆
(2)基本的な生産技術と経営スキルの習得
①先進的経営体及び関係団体と連携した実践的な講義・演習、資格取得による生産技術の習得
②「アグリカレッジひなた」での実践学習を通じた経営スキルの習得
③商品開発と販売によるフードビジネス関連スキルの習得
(3)有機農業の知識・技術習得
①有機農業概論、有機ＩＡＳ認証講座の実施　☆
(4)スマート農業技術の習得
①関連企業や大学、法人等と連携した講義・演習の実施
②スマート農業技術に関する資格取得

■取組実績と成果

(1)学生の多様化に対応したカリキュラムの構築
①・４年制大学編入に対応可能とする科目を構成したことで学生の選択肢が増加。
・農業科教育法（夏休み集中講義）を開設し、実習助手試験として個別の進路対応ができた。
・食品の機能性に関する科目を全学科が選択できるよう改正し、学生の多様な学びの意欲に対応した。
・農業系以外の高校卒業生を対象に「農業基礎」を、農業系高校卒業生向けに「数学基礎」をカリキュラムに新設することで、基礎学力の向上に努めた。

(2)基本的な生産技術と経営スキルの習得
① 年度当初に農業機械のメンテナンス研修を実施し、加温開始前に加温機のメンテナンス研修を実施。
メンテナンス研修の内容を参考に点検整備記録簿を作成し、GAP演習や環境整備でスキル習得を図った。
② 販売実習で、接客マナーや会計処理アプリ導入を行い、会計ミスの軽減策を検討し、経営に関する基礎的なスキル習得につながった。
③ 実習で賞味期限設定にかかる検査や食品表示などのスキルを習得した。

(3)有機農業の知識・技術習得
①・高鍋・木城有機農業推進協議会と連携し、農学科１年に「有機農業概論」の講義や視察研修を実施。
・有機ＩＡＳ認証講座を７回実施し、２月に模擬審査を受けたことで次年度の有機農業概論及び有機JAS演習のカリキュラムに反映できた。

(4)スマート農業技術の習得
①17企業、2大学から講師を招聘した「スマート農業基礎（1年）」、「スマート農業活用（2年）」の講義・演習や20フライトのドローンの活用を通して、実践的なスマート農業技術の習得につながった。
②農薬散布用ドローンの資格取得を 県内の民間企業へアウトソーシングしたことで、在学中も卒業後も継続的な資格取得・更新支援が可能となった。また、座学と演習を区別（各１単位）し、学生が受講しやすいカリキュラムに変更したことで受講者が20名増加（座学：32名、演習：14名）し、有効かつ実務的な資格取得につながった。

内部評価	B	・学生の多様化に対応したカリキュラムを構築し、学びの意欲に対応した。 ・模擬会社で会計アプリを導入し経営スキルの向上を図った。 ・有機農業概論の講座開設、有機ＩＡＳ認証講座に取り組んだことで次年度以降のより実践的なカリキュラムへ反映できた。
外部評価		

◇次年度への課題

・４年制大学編入を想定したカリキュラム、シラバスの充実が必要。
・求められる農業人材を育成するためには、基本的な生産技術と経営スキルの習得が必要。

評価項目	２．教育の質の向上	ウ．講義・演習	教務学生課 農　学　科 畜 産 学 科 ○フードビジネス

令和7年度の目標	①多様化する学生の進路選択に対応したカリキュラム、シラバスの充実 ②基本的な生産技術と経営スキルの習得

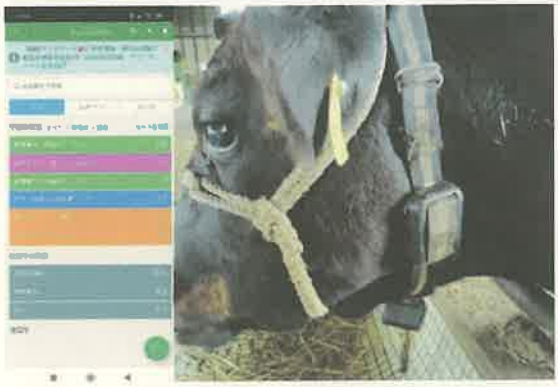
■取組と計画

☆は、新たな取組又は強化する取組
※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

(1)多様化する学生の進路選択に対応したカリキュラム、シラバスの充実
①４年生大学編入に対応したカリキュラム、シラバスの内容見直し
②４年生大学編入を目指す学生対象とした講義「英語特別演習」の実施
③実習助手を目指す学生対象とした講義「農業科教育法」の実施

(2)基本的な生産技術と経営スキルの習得
①農業法人（企業）と連携した実践的な講義・演習の実施
スマート農業活用、農業生産工程管理、法人経営、アグリビジネス、マーケティング　など
②資格取得等による生産技術の向上
農薬散布用ドローン操縦資格、土壌医検定３級、農業気象学（環境制御等含む）　など
③「アグリカレッジひなた」での実践学習を通じた経営スキルの習得

■令和6年度の実施状況



ファームノートを装着した繁殖牛とスマートフォンによる管理システム

アグリカレッジひなた定時株主総会の様子

ドローン操作演習の様子

評価項目	２．教育の資の向上	エ．研修（①インターンシップ）	教務学生課 ○農　学　科 畜 産 学 科

令和6年度の目標	①進路選択を見据えた研修先選定体制の拡充 ②研修先との連携強化

■取組

☆は、新たな取組又は強化する取組
※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

(1)研修先選定体制の拡充
①過年度のインターンシップ研修先や就職情報等の整理と、校内での情報共有。☆
②自主企画研修の事前説明と各学生に対応した細やかなフォローアップ。

(2)研修先との連携強化
①事前に作業内容を確認し、研修先との問題点を共有。
②自主企画研修は、学生の進路と研修内容が合致しているか確認し、研修先や関係団体等とも情報交換を行いながら取り組む。

■成果

(1)研修先選定体制の拡充
①共有ドライブに過年度の研修情報、当年度の学生の就職情報と研修情報を見える化し、校内における研修先・就職先の情報共有が図られた。（インターンシップ８年分、自主企画研修１０年分、就職情報５年分）

②自主企画研修は、全体の事前説明を行うとともに、研修先が決まらない学生には、個別指導・支援を行った。

(2)研修先との連携強化
①特性のある学生については、事前に研修先との情報の共有を行った。
②進路未定の学生、研修先選定が遅れた学生については、進路と研修内容との合致には至らなかったが、中間巡回指導を通じて研修先との情報交換ができた。
・研修終了後は、研修先からの評価を基に進路選択や就職指導に反映させることができた。

内部評価	B	・過年度の研修・就職情報を見える化し、校内の情報共有が図られた。 ・研修先選定が一部遅れたが、進路選択に反映できた。
外部評価		

◆次年度への課題

・効果的な研修を実施するため、農大校職員が連携した研修運営体制を構築する必要がある。

評価項目	2．教育の質の向上	エ．研修（①インターンシップ）	教務学生課 ○農　学　科 畜 産 学 科

令和7年度の目標	進路選択を見据えた研修指導の充実

■取組

☆は、新たな取組又は強化する取組　　※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

(1) 自主企画研修（１年次）
①教務学生課は、学生の進路希望に即した研修になるよう、総務課や各学科とも調整を行いながら、研修全体の企画運営に努める。
また、各学科は、教務学生課と連携しながら、学生指導や進捗確認、研修先との調整等を行い、８月末までに研修先を決定する。
(2) インターンシップⅡ（２年次）
幅広い進路選択に対応できるよう、研修時期や研修内容等を検討する。

■令和6年度の実施状況

ねぎ出荷調整作業（10月）
農学科自主企画研修

除角作業（10月）
畜産学科自主企画研修

評価項目	２．教育の質の向上	エ．研修（②職員研修）	教務学生課 ○農　学　科 畜 産 学 科 フードビジネス

令和6年度の目標	①学生指導力と専門指導力の向上

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組
※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

(1)学生指導力の向上
①ＩＣＴ活用校内研修☆と特性のある学生対応の校内研修の実施（校内研修各１回）
②学生による授業評価の実施（講義に対する満足度　概ね8点/10点）

(2)専門指導力の向上
①職員の各種資格取得（延べ６名）
②継続的に指導現場で活かせる効果的な指導資料の作成（レシピの見える化　３商品(フードビジネス専攻)）☆
③専門業種所管の企業、機関と連携した専門性の高い指導体制の構築
（研修会２回、講義11回）

■取組実績と成果

(1)学生指導力の向上
①ＩＣＴ活用研修→　教育研修センターから講師を招き、GoogleClassroomの活用術を実施
特性ある学生対応→　講師と日程調整ができず未実施
②学生による授業評価　満足度＝満足、ほぼ満足の回答９１．３％（昨年度：７６．３％）

(2)専門指導力の向上
①職員の各種資格取得
ドローンオペレーター(２名)、ドローンインストラクター新規・更新（各１名）、
大型特殊農耕用(２名)、フォークリフト(２名）、有機農産物の生産行程管理者(４名)、
ＡＳＩＡＧＡＰ指導員更新(３名）、食品衛生責任者(２名)、チェーンソー講習（１名）
食品表示検定初級(１名)、農薬管理指導士（１名）、土壌医３級（１名）
実績：20名／目標：６名　333％

②効果的な指導資料の作成（フードビジネス専攻）
マドレーヌ、パウンドケーキ、きんかん米粉クッキー、レモン米粉クッキー、アイスクリーム、らっきょう甘酢漬、柚子胡椒のレシピを作成し、職員間で情報共有、活用を図った。
実績：７商品／目標：３商品　230％

③専門性の高い指導体制の構築
メンテナンス研修２回（農学科：農業機械、加温機）
有機農業関係講義11回・研修２回：（農・畜産学科）
※講義内訳　有機JAS認証講座7回、有機概論4回（視察含む）
環境負荷低減技術講義：１回（農・畜産学科）
研修実績：４回／目標：２回　200%、講義実績：12回／目標：11回　110％

内部評価	A	・学生による授業評価で、ほぼ満足以上の回答が９１．３％であった。 ・職員の資格取得、商品開発レシピ作成、メンテナンス研修は目標数より多く実績を残した。
外部評価		

◆次年度への課題

・効果的な教育を切れ目なく提供するためには、職員の指導力向上を継続していく必要がある

評価項目	２．教育の質の向上	エ．研修（②職員研修）	教務学生課 ○農　学　科 畜 産 学 科 フードビジネス

令和7年度の目標	職員の指導力向上

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組　　※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

(1)職員の指導力向上
①専門指導力向上のために資格取得（延べ６名）
②高等学校の公開授業参加（７名）
③教職員による校内指導力強化研修の実施（Google　classroom　２回）
④教育委員会主催職能研修等参加（５名）及び農政水産部主催農業技術研修・試験場成果報告参加（５名）

■令和6年度の実施状況

【製造工程】
1）卵を分割してミキサー用ボウルに入れ、ハチミツを加える。
2）卵とハチミツをホイッパーで軽く撹拌→泡だて器で卵白が持ち上がらない程度
3）砂糖を３回に分けて加え、軽く撹拌し（この時点ではまだ泡立てない程度）、砂糖をおおかた溶かしたら、６０℃で湯煎をしながら、４５℃まで加熱。（泡立てないように注意）
4）４５℃になったらミキサーにセットし、もったりとした状態になるまで高速で撹拌する。
5）２回に分けて粉を加える。※薄力粉は加える直前に振るう。薄力粉を加えたら、低速で混ぜながらバニラオイルを加える。だまがなくなったら混ぜ終わり。
6）６０℃に熱したバターを一気に加え、低速で混ぜる。
7）ミキサーから外し、ゴムベラで壁や底をすくうようにしっかりと混ぜる。（底に沈んだバターに注意）
8）１００ｇプリンカップで比重を計る。（プレーン 0.75‥７５ｇ　ココア 0.85‥８５ｇ）
9）グラシン紙を敷いたマドレーヌ型に６５ｇづつ分注する。

マドレーヌ（共立て法）レシピ一部抜粋

メンテナンス研修
（4月12日）

評価項目	２．教育の質の向上	オ．プロジェクト学習	農　学　科 ○畜 産 学 科 フードビジネス

令和6年度の目標	①高大、産学官、地域との連携によるプロジェクト活動の実践

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組
※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

①企業と連携した研修（高大連携研修３回）☆
②みどり戦略学生チャレンジへの取組（３課題）　☆
③地域資源活用に取り組む企業や有機栽培実践者等と連携した環境負荷低減講座の実施
④チャレンジファームと連携した講義や研修（3回）
⑤普及性のある結論を導き出すための調査方法の指導及び検討

■取組実績と成果

① 株式会社ミヤチクを講師に県内産食肉の活用方法について(7/11, 12)、株式会社アシェンテを講師に製パン技術及び農大産小麦の地域内活用について（7/17）、高鍋農業高校食品科学科教諭より乳加工研修会で学びプロジェクト課題設定のヒントを得て活動内容が充実した。
（肉・乳加工実習は高鍋農業高校食品科学科と合同）高大連携研修実績２回／目標３回　67%

② 作物専攻が３課題に取り組み、継続的なプロジェクト学習につながった。
実績３課題／目標３課題　100%
◆みどり戦略学生チャレンジ九州ブロック大会
・春バレイショ作における有機質肥料の施用効果『九州農政局長賞』
・カンショ作におけるバイオ炭と根粒菌の効果『九州農政局特別賞』
・有機的栽培と慣行栽培における除草コストの比較『九州みどりチャレンジ賞』

③ 2/25　大和フロンティアを講師に環境負荷低減技術講座を実施し、笹サイレージの活用や農畜産業を主軸とした持続可能な事業展開について学ぶとともに、焼酎粕や笹サイレージを活用したプロジェクトに取り組んだ。また有機JAS認証講座も７回実施した。

④ 講　義:7/24　直進ｱｼｽﾄﾄﾗｸﾀｰ、収穫機・移植機等の実演指導(ｽﾏｰﾄ農業基礎)
9/4　畑かん資材、散水器具実演指導（農業気象学）
実演会：9/4　スガノ農機械実演会でﾌﾟﾗｳ実演指導
研修会：9/6　有機JAS適用のフェロモン材を次世代営農研修会参加者全員で設置
2/17　チャレンジファームのキャベツ研修

⑤ 11/8　専門技術員とのプロジェクト課題検討の場を設定したことで、学生の地域における課題や調査方法に対する理解度が高まり、作物専攻のプロジェクト活動の継続性や内容充実につながった。

内部評価	A	・作物専攻のプロジェクト学習が、九州農政局長賞、九州農政局特別賞、九州みどりチャレンジ賞を受賞
外部評価		

◆次年度への課題

・企業と連携した研修を定着させるために、継続して実施することが必要
・高大連携活動を構築するためには、継続した取組が必要
・地域と連携した環境負荷低減の取り組みを進めるためには、地域資源活用、有機栽培等の講座・演習等の実施が必要

評価項目	２．教育の質の向上	オ．プロジェクト学習	農　学　科 ○畜 産 学 科 フードビジネス

令和7年度の目標	高大、産学官、地域と連携したプロジェクト活動による高度な技術の修得

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組　　※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

①食品企業やチャレンジファーム等と連携した研修の継続実施（３回）
②外部講師を招聘した合同研修などの高大連携活動の継続実施によるプロジェクト学習の強化
③環境負荷低減に関するプロジェクト学習を進めるための、地域資源の有効活用や有機栽培を実践する地域の企業、団体による講座開講（３回）及びプロジェクト学習の実践

■令和6年度の実施状況

みどり戦略学生チャレンジ発表・意見交換会（12月23日）

リバーシブルプラウ実演会（９月４日）

評価項目	２．教育の質の向上	カ．学生指導・支援	教務学生課 農　学　科 ○畜 産 学 科

令和6年度の目標	①学生自治会活動組織の活性化と人材の育成 ②農場長を中心とした農場運営の充実とＧＡＰ・ＨＡＣＣＰの実践力強化

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組
※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

(1)学生自治会活動組織の活性化と人材の育成
①定例研修会や役員会の実施を支援し、役員の資質向上を促す。
②各部会ごとの振り返りや次の取組の具体策検討を支援する。
③月１回のクリーン（環境美化）活動の実践支援　☆
④各種規定等の見直しの実施　☆

(2)農場長を中心とした農場運営とＧＡＰ・ＨＡＣＣＰの実践力強化
①講義や実習を通じたＧＡＰの自主的な実践を促す
②物品管理部（学生）機械担当の点検記録の充実支援　☆
③ひなたＧＡＰの取得品目拡大（２品目）　☆

■取組実績と成果

(1)学生自治会活動組織の活性化と人材の育成
①月に1回学生役員と行事運営について打合せを実施
・進捗状況を把握したことで、運営がスムーズになってきた。
・打合せを重ねる事で学生が自覚を持ち、先見性が身に付きつつある。
②各部会が十分開催されず、活動計画、課題、実績等を共有し改善していく場が設定できていなかった。
③学生自らの点検や、週に１度の清掃、自主的な罰則規定の設定を支援したことで、学生寮全棟が目標を達成した。
④各種規定等の見直しを行い、次年度学生便覧に反映した。

(2)農場長を中心とした農場運営とＧＡＰ・ＨＡＣＣＰの実践力強化
①ＧＡＰ演習、ＡＳＩＡＧＡＰ(11月)、ひなたＧＡＰ(7月、12月)、Ｊ－ＧＡＰ(1月)の審査を学生に主体的な経験をさせ、理解力や実践力が高まった。
②学生自らが記帳しやすい新たな記録簿を作成したことで、点検記録の充実につながった。
③ひなたＧＡＰの(青果物）と花で取得品目が拡大し、（原料用かんしょ、スイートピー、ラナンキュラス）特に花専攻のＧＡＰ実践力が高まった。（実績3品目／計画2品目）

内部評価	B	・クリーン活動（実績：週1回／計画：月1回）は高い自主性のもと、計画以上の結果が出ており成長が感じられたが、各部会が十分に機能できていなかったことについて改善が求めらる。
外部評価		

◆次年度への課題

・学生自治会の部会活動が実効性のあるものになるよう、活動計画の充実を促す。
・ＨＡＣＣＰに準じた衛生管理について、学生が自主的に実践できるよう指導を強化する必要がある。

評価項目	２．教育の質の向上	カ．学生指導・支援	教務学生課 農　学　科 ○畜 産 学 科

令和7年度の目標	①自発的・自主的な学生自治活動の実践 ②農場長を中心とした農場運営の充実とＧＡＰ・ＨＡＣＣＰの実践力の強化

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組
※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

(1) 自発的・自主的な学生自治活動の実践
①実効性のある活動となるように、学生が自治会活動計画を自発的に策定するよう促す。
②学生寮清掃状況の定期的自己点検により、週１回のクリーン（環境美化）活動の実践を促す☆
③各部会活動の実施後に、部会員一人ひとりに課題抽出と改善策の検討を行わせることで活動の充実を促す。

(2) 農場長を中心とした農場運営とＧＡＰ・ＨＡＣＣＰの実践力強化
①学生がＧＡＰ・ＨＡＣＣＰを自主的に実践できるよう、制度内容をしっかり理解させるとともに、対応手法を習得できるよう指導の強化を図る.

■令和6年度の実施状況

ＡＳＩＡＧＡＰ審査
（11月18日）

JGAP維持審査
（家畜・畜産物）R7.1.9

評価項目	３．進路指導	キ．資格取得	○教務学生課 農　学　科 畜産学科 フードビジネス

令和6年度の目標	実用的な資格取得の推進

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組
※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

(1)効果的に資格取得ができるようなカリキュラムの検討
①カリキュラム及び教務内規の変更に伴う検討　☆

(2)資格取得に関わる改善等
☆実施時期や検定代、内容等を整理し周知（学生便覧に反映）
①ドローン操作演習に関わるあり方を検討
②大特・けん引等農業機械に関する資格取得とカリキュラムのあり方について検討

■取組実績と成果

(1)効果的に資格取得ができるようなカリキュラムの検討
①教務内規変更を行い、８つの資格については、既に資格を取得している学生については、当該資格取得に必要な講義の単位取得を認め、重複して受講することを無くしたことで、新たな資格取得に必要な時間を提供することができた。その結果、既に資格取得していた10名の学生がそれぞれ1単位ずつ単位加算することができた。

(2)資格取得に関わる改善等
☆各種資格試験の実施時期や内容、実施団体等を整理して学生便覧に掲載し周知した。
①農薬散布用ドローン資格（オペレーター）を取得した卒業生（有効期限：２年間）の資格更新研修を企業へアウトソーシングすることで、本校職員の業務負担軽減と、卒業生への継続的な資格取得・更新支援が可能となった。
＊ 学生の農薬散布用ドローン資格取得者数：１０名（令和５年度：２７名取得）
②大特・けん引免許は、一般受講者の受講枠の拡充を検討したが、関係機関との調整がつかず、次年度は従来どおりの対応となった。

内部評価	B	・カリキュラムの見直しにより、資格の単位加算が計画どおり進み、重複受講をなくすことができた。 ・農薬散布用ドロン資格対応は、免許取得・更新について企業と連携することで課題を改善することができた。
外部評価		

◆次年度への課題

・学生の資格取得率と単位取得を向上させるために、資格取得に関する講義の単位認定を進める。
・本校職員が学生の資格所得に関する業務に集中できるよう、引き続き、卒業生の免許更新は関係企業と連携し取り組む。

評価項目	３．進路指導	キ．資格取得	○教務学生課 農　学　科 畜産学科 フードビジネス

令和7年度の目標	実用的な資格取得の推進

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組
※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

(1)資格取得に関わる改善等

①隙間（ゆとり）時間がもたらす教育効果について☆

・取得済みの資格を単位化することで、空き時間を有効活用し新たな資格取得や就職活動に専念する時間の確保に努める。（資格取得の推進、就職活動の充実、ゆとりある学校生活の推進）

②進路選択に反映できる資格取得の推進

・大型特殊免許、けん引、人工授精、削蹄師等の有用的な資格取得の推進する。

・ドローン操作演習を選択教科とし、単位取得を「講義」と「実技」に分けるなど、学生のニーズに合った形に改善する。（カリキュラムの改善）

■取組実績と成果

内部評価		
外部評価		

◆次年度への課題

評価項目	３．進路指導	ク．就農・就職対策	○教務学生課 農　学　科 畜 産 学 科 フードビジネス

令和6年度の目標	①年度内の進路決定１００％ ②就農率５５％以上を確保

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組
※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

◇目標に対する取組み等

(1)年度内の進路決定１００％

①学生情報や就職情報を共有するとともに、情報の見える化に努める。　☆

②これまでの就職情報（試験内容や面接等）をデータ化し、進路指導の充実を図る。　☆

③農業法人や農業関連企業、ハローワーク等との連携を強化し出口指導の充実を図る。

④進路に関する学生への意識付けに努めるとともに、早い時期に教育相談期間やアンケートを実施し早期進路決定に繋げる。

(2)就農率５５％以上を確保

①農大での教育活動とおして、毎年就農率５５％を目標に努める。

②法人マッチングの充実を図るとともに、法人就農試験等の情報を整理し、就職活動の推進に努める。

③就農コーディネーターや関係機関と連携した就農サポートに努める。

■取組実績と成果

(1)年度内の進路決定１００％

①② 進路決定した学生は６２名で、進路決定率１００％
全職員の共有ドライブに「見える化フォルダ」を開設し、学生情報や就職情報（試験情報も含む）の共有に努め、本校職員の進路指導に対する意識も向上した。

③農業法人や農業関連企業、ハローワーク等との連携を随時実施するとともに、法人就農試験等の就職報告をまとめ、面接試験等の就職対策に有効活用できた。
また、キャリア教育に関する研修会を２回（12/11, 3/12）実施し、意識の向上に努めた。

④学校生活アンケートを４月に実施し、学生の希望に応じた進路指導を早めに対応したことから早期の進路決定となった。

(2)就農率５５％以上を確保

①即就農５名、法人就農２５名、研修後就農１名で就農率５０％である。（達成率９０．９％）

②法人マッチング（6月実施）に６４社が参加（達成率116%）し、進路決定に大きく貢献した。

③就農希望者を対象に農業振興公社や就農コーディネーターによる支援を随時行った。

内部評価	A	・進路決定率は１００％ ・就農率５０％（達成率９０．９％）
外部評価		

◆次年度への課題

・年度内に全ての学生の進路を決定するためには、早期の個別面談による進路目標設定を図る必要がある。

・実家が非農家の学生が多くなる中、目標の就農率を確保するためには、就農コーディネーターや関係機関との連携が必要

評価項目	３．進路指導	ク．就農・就職対策	○教務学生課 農　学　科 畜 産 学 科 フードビジネス

令和7年度の目標	①年度内の進路決定１００％ ②就農率５５％以上を確保

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組　　※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

◇目標に対する取組み等

①年度内の進路決定１００％する
- 早期の個別面談による進路目標設定を充実させる。
- 進路目標達成に必要な知識と技術の習得を図る。
- キャリア形成に関するセミナーを新設するなど、支援の充実を図る。

②農業法人組合や農業関連企業との連携を強化する（就農率５５％以上を確保）
- 法人マッチングの充実及び成果を活用した進路選択活動の推進に図る。
- 就職相談会の早期申込みや学生の意識高揚を行うために、情報提供の実施を図る。
- 就農コーディネーターや関係機関と連携した就農サポート体制の充実を図る。

③新たな進路選択への対応☆
- ４年制大学編入への対応に努める。
- 実習助手希望者に対し、農業高校との連携による教育実習実施を図る。

■取組実績と成果

内部評価	
外部評価	

◆次年度への課題

○評価基準（達成度）

A＝120％以上（目標以上の成果）　B＝119～80％（目標達成）　C＝79％～50％（やや達成できない）
D＝49％以下（達成できない）